

令和元年度第2回八千代市まち・ひと・しごと創生懇談会 会議録

- 1 開催日時 令和2年2月4日（火）午後1時30分から2時30分まで
- 2 場所 八千代市役所 別館2階 第1会議室
- 3 出席者 <委員>7名
佐藤 俊恵委員，田中 宏行委員，永長 徹委員，増澤 洋一委員
田中 康弘委員，島 勝彦委員，町塚 栄介委員
<事務局>5名
小川企画部長，加藤企画部次長
原田企画経営課主幹，井澤副主幹，赤川主任主事
- 4 議題 (1) 総合戦略の改訂について
(2) 人口ビジョンの改訂について
(3) その他
- 5 公開・非公開 公開
- 6 傍聴人 1名（定員5名）

【会 議 録】

1 開会

2 議題

(1) 総合戦略の改訂について

○田中座長

本日はお忙しい中お集りいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、会議次第に基づき、議事を進めてまいります。

議題(1)「総合戦略の改訂について」、事務局の説明を求めます。

○事務局

企画経営課の赤川でございます。

私から、「総合戦略の改訂について」、説明させていただきます。恐れ入りますが、着座にて失礼いたします。

まず、お配りしている資料のうち、参考資料1「八千代市第5次総合計画策定基本方針」をご覧ください。こちらの策定基本方針につきましては、令和3年度から始まる八千代市第5次総合計画における計画の構成や計画の期間、策定体制などについて定めたものでございます。そちらの3ページ目「5 策定における基本的な考え方」(2)をご覧ください。

現行の「八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間は今年度で終了となりますが、総合戦略の趣旨である少子高齢化や人口減少問題の克服、地域経済の発展や活力ある地域社会の形成は総合計画と目的を同じくしていることから、計画期間を1年延長し、令和3年度から始まる第5次総合計画と次期総合戦略を一体的に策定する方針を、令和元年12月27日策定の「八千代市第5次総合計画策定基本方針」において、決定いたしました。

次に、資料1「総合戦略改訂箇所一覧」、及び参考資料2「八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を併せてご覧ください。

資料1につきましては、今回の改訂を行う箇所の一覧となりまして、一番左のページ数が現行の総合戦略における改訂箇所のページとなります。改訂の内容としましては、計画期間の延長と、重要業績評価指標(KPI)の改訂の2点でございます。表の下線部分が改訂箇所となります。

1点目の計画期間の延長につきましては、総合戦略の3ページにあります期間を1年間延長し、令和2年度までとするものです。なお、国の第2期総合戦略につきましては、令和2年度から令和6年度までの計画をすでに作成しておりまして、今回の改訂により計画期間が合わなくなってしまうますが、第5次総合計画の前期基本計画を令和6年度までの4年間の計画としており、次期総合戦略においても同様の期間とすることを予定していることから、計画期間の満了時期は、整合を図ることができます。

2点目の重要業績評価指標(KPI)の改訂につきましては、KPIの目標年度を1年延長するものです。KPIの達成状況につきましては、前回の会議でお伝えしたところですが、目標値を達成している項目が24項目中4項目となっていることから、基本的には目標値は据え置き、

来年度も目標達成に向けて引き続き取り組んでいく考えでおります。

以上で、「総合戦略の改訂について」の説明を終わります。

○田中座長

ありがとうございました。ただ今の事務局からの説明について、ご意見、ご質問などがありましたらお願いいたします。

【 質疑なし 】

それでは無いようですので、次の議題に移ります。

議題 (2) 「人口ビジョンの改訂について」、事務局の説明を求めます。

(2) 人口ビジョンの改訂について

○事務局

「人口ビジョンの改訂について」、引き続き説明させていただきます。

それでは、お配りしている資料のうち、資料2「八千代市人口ビジョン（令和2年改訂版）(案)」をご覧ください。

まず、人口ビジョンにつきましては、各地方公共団体における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものとして、国の長期ビジョンを勘案し策定することとされており、八千代市は、平成28年3月に八千代市人口ビジョンを策定しました。

その後、策定から3年あまりが経過し、この間に将来人口推計の基礎データである国勢調査の結果や、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計結果が公表されたことから、改めて本市の人口の現状を把握し、目指すべき将来の方向及び人口の将来展望を示すため、今回、改訂を行うこととしました。

それでは、改訂内容について、ご説明いたします。

4ページ目の「3 改訂のポイント」(2) 改訂の主な内容をご覧ください。改訂の主な内容としましては、人口動向分析において、平成27年国勢調査や住民基本台帳など、最新の数値に更新するとともに、転入元、転出先別年齢階級別の状況や女性の年齢階級別就業率の推移など、新たな項目を追加しました。

将来人口推計では、2019年3月31日を基準日として、現行の人口ビジョンと同様の推計手法を用いて推計を行いました。また、これまでは総人口の推計結果のみを記載していましたが、年齢階級別及び地区別の推計結果を新たに記載しております。

それでは、今回の改訂により項目の追加などを行った主な点につきまして、ご説明いたします。

資料の14ページ「(4) 世帯の動向」をご覧ください。

現行の人口ビジョンでは、自然増減や社会増減の推移についての記載は有ったものの、世帯数及び世帯の構成といった、本市の世帯動向の記載が無かったことから、今回追加いたしました。国勢調査の数値を基に推移をみますと、1985年から2015年の30年間において世帯数は増加しておりますが、1世帯あたりの平均人員を表す世帯人員では、1995年には3人を

下回り、2015年では1世帯あたり2.46人となっております。世帯の構成をみますと、夫婦と子供や三世帯同居の割合が減少傾向にある一方で、単独世帯や夫婦のみの世帯が増加傾向にあり、少子化や晩婚化、高齢者のみの世帯が増加していることなどが影響しているものと考えられます。

次に26ページ「(3) 定住率の状況」をご覧ください。

平成27年国勢調査の結果を基に、5年前に住んでいた場所が現住所であった人の割合を定住率として算出し、県内他市との比較や男女年齢別についてグラフで表しております。県内他市との比較をみますと、千葉県平均の71.78%に対し、本市は69.00%となっております。県内市では、最も定住率が高いのは南房総市の87.26%、最も低いのは市川市の58.45%となっており、千葉県北西部の東京に近い市の定住率が低いことがわかります。また、男女年齢階級別にみると、男女ともに20代から30代での定住率の低さが目立つとともに、10代から30代前半までは男性の方が定住率は高い傾向にありますが、30代後半以降は女性の方が定住率は高い傾向にあります。

次に27ページ「(4) 転入元・転出先の状況」をご覧ください。

2018年における他市町村との人口移動状況を表したグラフとなっており、転入元及び転出先ともに船橋市が最も多く、次に佐倉市、千葉市花見川区が多くなっております。

次に28ページの「年齢階級別のグラフ」をご覧ください。

2018年に転入者及び転出者が100人以上であった相手先の市区別に、その年齢別内訳を2014年から2018年の平均値でみると、転入・転出者数ともに多くの市区で20代後半が最も多い結果となっておりますが、30代前半が最も多い市区もあり、子育て世代の移動パターンとして注目される場所です。

次に33ページ「女性の年齢階級別就業率の推移」をご覧ください。

女性の就業率を5歳階級別にみますと、30代から40代前半の子育て世代を中心に就業率が低くなる、いわゆる「M字カーブ」が全国的にみられ、本市でもその傾向はみられますが、近年はこの落ち込み度合いが徐々に改善されつつあります。しかしながら、全国及び千葉県平均を下回っており、女性の就業率の向上が課題であることがわかります。

次に将来人口推計についてご説明いたします。資料45ページをご覧ください。

先程少しご説明いたしましたが、今回の将来人口推計は現行の人口ビジョンと同様の推計手法とし、基準人口の時点を2015年3月31日から2019年3月31日に修正しております。

次に資料46ページ「(1) 総人口の推計結果」をご覧ください。

今回の改訂に伴う将来人口推計の結果につきましては、人口のピークが現行の2027年から2年前倒しとなる2025年となり、その後、全国の傾向と同様に減少に転じ、2040年には約19万4千人、2060年には約17万1千人にまで減少する見込みとなっております。これは、現行の推計結果に対する実績において、総人口は上回っているものの、少子高齢化が進行し、2017年から自然減となっていることなどの影響が大きいものと考えられます。

次に資料49ページ「年齢3区分別人口の推計値」をご覧ください。

将来人口推計を年少人口、生産年齢人口、老年人口の3区分に分けた結果をみますと、年少人口は現在も減少しており、今後も一貫して減少傾向が続くことが見込まれます。生産年

齢人口は人口のピークである 2025 年までは増加が見込まれるものの、その後は減少が続くことが見込まれます。老年人口は現在の増加傾向が今後も 2045 年までは続き、その後減少に転じる見込みとなっております。また、高齢化率では、2019 年は 25%程度であったものが、約 25 年後の 2045 年には約 35%にまで上昇することが見込まれております。

最後に資料 62 ページ「人口の将来展望」をご覧ください。

2060 年の将来目標人口として、合計特殊出生率を向上し、若い世代における転入超過の流れを継続することで、将来人口推計結果である約 17 万 1 千人を上回ることを、改訂後の人口ビジョンにおいては目標としております。

以上で、「人口ビジョンの改訂について」の説明を終わります。

○田中座長

ありがとうございました。ただ今の事務局からの説明について、ご意見、ご質問などがありましたらお願いいたします。

○田中（康）委員

先程の 26 ページの説明の中で、男女ともに 20 代から 30 代の定住率の低さが目立ち、定住率は県内の中でも低位である説明がありました。転出先については、船橋市、佐倉市、印西市が多いとの説明をいただいたのですが、船橋市は都心に近くなるのでわかりますが、逆に佐倉市が出てくる理由や要因につきましてはどのような点があるとお考えでしょうか。また、言い換えれば船橋市や佐倉市が惹きつける魅力、もしくは船橋市や佐倉市に有って八千代市に無いものはどんなものだとお考えでしょうか。

○事務局

27 ページの転入・転出の状況を見ていただきますと、船橋市・佐倉市については転出しておりますが転入もしております。要因としては、20 代・30 代の方が多いことから、就職や通学が要因として近隣の移動が多いとみております。ただし、実際に行っている取り組みが転入・転出にどれほど影響を与えているかにつきましては、把握していないところです。

○事務局

転入・転出の理由としまして、明確な理由とまではいきませんが補足させていただきますと、平成 27 年に行いました転入・転出におけるアンケートの結果をみますと、年代別の移動理由として、20 代であれば結婚や転勤、30 代・40 代であれば住宅購入が多く挙げられております。船橋市から転入されてくる方については住宅購入などにおいて、少しでも家賃や地価の安い場所を探しているいらっしゃる方がいると思われるのと同様に、佐倉市への転出もそのような理由が影響しているものと推測されます。

○田中座長

よろしいでしょうか。船橋市からの転入が多い理由は、都心に近く通勤・通学に便利だと

いうことも影響しているのでしょうか。あるいは大口の開発などあったのでしょうか。

○事務局

船橋市と八千代市は近隣であり、鉄道においても京成線・東葉高速線が通っており類似していること。また、開発が進んでいる西八千代において、住宅購入先として選ばれているなどが理由ではないかと考えております。

○事務局

補足ですが、通勤経路として船橋市・八千代市と同じ沿線で都心に近く通勤圏内であることや、住宅購入において地価の差があることなどについて、影響があると考えております。

○佐藤委員

46 ページの総人口の推計結果について、まだ八千代市の場合は社会増で増加していて、2025 年をピークに減少する推計とのことで、将来的に減るのがわかっていますが、他市と比べて減少のカーブが緩やかだと思えますし、高齢化率も他市と比べて高くないです。先程の定住率をみると、高齢化率が高いところは極めて定住率も高くなり、低いところは定住率もそうでもないです。

それを考え合わせて、2060 年で 17 万人規模の人口を有する自治体は全国に多くないと考えると、この間に取り組むべきことがあると思えます。八千代市で例を挙げると、人口が減ってイオンが撤退する、そんなことはないと思えますが、全国的にみると大型ショッピングセンターや商店街が無くなると働く場所も無くなり、人口が減ると学校も無くなるなど色々なマイナスな条件が重なってきます。そうすると、現在は増えてはいるけれど将来的に減るのがわかっている訳なので、この間にどういう対策をしていくかが大事で、逆に言うと近隣で商店やショッピングモールが無くなると八千代市の魅力が高くなるのがあって、人口が減るどころか増えることもあり得るので、様々なことに目配りをして人口減少を食い止めることが大事だと思います。

その辺りはどのようにお考えでしょうか。だいぶ先の話なので、そこまで考えておられるのかも含めて、ご見解をお聞きしたいと思えます。

○事務局

委員がおっしゃられたように、今後人口減少が見込まれているため、人口減少による様々な影響を考慮して、今後の計画を立てていくことが重要と考えております。先程も触れました第 5 次総合計画策定基本方針において、総合戦略と一体として策定することを方針として立てたところですが、人口減少が今後の計画のキーワードになると捉えております。

人口が増えている間は税収も一定程度確保できる見通しとなっておりますので、財政状況を踏まえて、人口減少に向けた対策を講じる準備期間として捉えております。具体的な施策については、第 5 次総合計画と次期総合戦略の中で位置付けていくことを考えております。

○田中座長

具体的に言うことは何か考えていますか。

○事務局

現状は、第5次総合計画策定に当たっての意識調査などを行っております。今年度中に将来都市像などを定めた基本構想案を策定し、来年度に施策を体系づけて構築していくことを予定しております。

○佐藤委員

増えているときがとても大事で、減り続けてからこれを緩やかにしたりカーブを上向きにすることはすごく難しいことは、全国の急激な人口減になっている地域をみれば明らかですので、やっぱりこの増え続けている段階で減ることがわかっている訳なので、だからこそどうしていくべきかを色々な計画の中にそうした視点を取り入れていくことが、八千代市が千葉県の中で市民にとって暮らしやすいまちづくりができるかの基本になるところかと思えますので、是非ご検討いただきたいと思えます。

○田中座長

他にございますか。

○増澤委員

15ページの自然増減の推移で、一番下の注意書きに外国人を含むとありますが、どのように増減しているのか、また今後どのように推移していくのか教えてください。医療センターに伺った時も外国人の方が非常に多く、自分の大学でも私の学部だと半数は外国人の方という状況で、その方々は八千代市に住んでいて、今後住み続けたいと思っていただいているのならカウントできるのかなと期待を込めています。

○事務局

今までの外国人の推移についての資料は持っているのですが、今手元にはございませんので、後程お答えさせていただきます。

○田中座長

他にございますか。私からよろしいでしょうか。46ページの総人口の推計結果で2025年がピークで20万5千人ということでこれから6千人程増える訳ですが、西八千代の土地区画整理事業で今の人口が約6千人で将来の予定人口が1万4千人なので、これから8千人程度増える計画となっておりますけれども、6千人ということは他の地域が減っているという考えでしょうか。

○事務局

緑が丘西の計画人口が1万4千人で、2019年9月末で約6,700人となっており、今後の推計では2023年までの4年間の間に年間で約1,400人増えていく推計をしております。緑が丘西地区は2029年をピークに14,280人と推計し、そこから減少する見込みとしております。

○田中座長

1万4千人まで増えるには少し時間がかかるということですか。

○事務局

はい。すでに増加しておりますが、今後4年間は毎年1,400人程度の増加を見込んでいるところです。

○佐藤委員

14ページの世帯の動向で、単身世帯が増加して三世帯同居が少なくなる、子どもがいて親とおじいちゃんおばあちゃんがいると、お父さんお母さんも仕事をしやすい環境が作られるかもしれませんし、単身世帯や高齢者と同居している世帯ではご家族のケアで見えない費用が隠されていると思っています。例えば、地域のネットワークを活用して単身世帯をリカバリーするような取り組みを行っている自治体もありますので、そういったところを丁寧に行わないと、この単身世帯の方を全て自治体がカバーしていくことはなかなか難しく、思いもかけない事態が起きることがあります。

人口だけではわからない世帯数の変化というのは行政的には大変負担が大きく、社会保障の面でもそうですし、女性が働く面でもそうだと思います。家族が近くに住んでいるケースも八千代市は多いと思いますけれども、他の自治体より深刻な数字ではないと思いますが、他の例を見ると世帯数の減少は見えないかたちでどんどん予算を使うと捉えて、悪化する前に地域力を活かすなど何か手立てがないか考えていて、行政窓口と連携していった方が、市民もそうですが自治体も負担が少なくて全体的に底上げができるのかなと思います。減っていくのは確実に減っていくと思いますので、この辺りもご認識していただき共有していただければと思います。

○事務局

八千代市の高齢者へのケアというのは、基本的には介護保険のサービスで事業所などのプロフェッショナルによって賄われている部分があり、八千代市の高齢者に関する施策はほとんどが一人暮らしの高齢者の方に特化したかたちに集中してきております。昔の高齢化率が低かったときは、お祝いをあげたり市民会館で催しものを開いたりと色々あったのですが、行財政改革もあった中で一人暮らしに特化したかたちになりました。例えば今では当たり前になっていますが、一人暮らしの高齢者の家に元気かどうか感知するセンサーを付けるシステムについて、今では民間が行っていますが、いち早く八千代市はそういったものにも取り組んでまいりました。

しかし委員がおっしゃられたように、これから一人暮らしの方が増えていきますので、今まで通りやっていけるかといえかなり厳しい状況にあると感じております。国では地域包括ケアシステムということで、やはり地域で見守りをしていく流れで動いておりますので、コストの話もありましたが、そこの仕組みづくりを意識していかなければいけないと思っております。家庭の事情で一人になっている方と、本人が望んで一人になっている方もおりますので、そういった方々をどうやって社会全体で見守っていけるかが非常に大きな課題となっておりますので、福祉部門と共有しながら、深刻に受け止めて今後の計画を策定していく考えでおります。

○佐藤委員

一人暮らしになっている方は様々な支援が必要になってくるのですが、単身世帯予備軍というかたちで、80代過ぎてお二人で暮らしていらっしゃる方がいて、80代過ぎて運転してもいいだろうかと切実な思いで、ほんの少し先のスーパーに行くにも大変なんだという実情があります。まだ一人は動けるとい話を聞きますと、二人だから大丈夫ということではなくて、単身世帯予備軍のような世帯も含めて考えていくことが必要ですし、高齢者に目が行きがちですが、やっぱり働く世代からは子どもの保育園の送り迎えや学童保育ですとか、連携が上手に取れていないとなかなか他市の方が良いと引っ越してしまいますし、そこも含めて世帯数の減少というのは見えないかたちで私達の生活に影響を及ぼしていることを認識していたらと思います。

○事務局

遅くなり申し訳ありませんが、先程の外国人の関係についてお答えいたします。過去の推移としましては、2014年3月末では3,698人であったものが2019年3月末では5,405人となっており、1,706人の増加となっております。その中で国籍別で見ますと、多い国籍から、中国の方が894人から1,223人となり329人の増、フィリピンの方が588人から815人となり227人の増、次に最も増加しているのがベトナムの方で274人から731人となり457人の増となっております。

今回の将来人口推計につきましては、基本的に住民基本台帳人口をベースに推計しておりまして、その中で外国人を含めた八千代市の総人口及び地区別の人口を推計しており、日本人と外国人の別々の推計は行っておりませんのでご了承いただければと思います。

○田中（康）委員

千葉銀行は八千代市内に5か所支店を構えているのですが、最近特に感じるのが東葉高速線沿線と京成線沿線の二極化で、ショッピングセンターや病院、道幅などについて大きな差があります。昨年5月頃に、副市長さんに表敬訪問させていただいた時におっしゃったのが、東急線沿線の武蔵小杉駅の話をして、やはり開発には鉄道と行政とシンクタンク、我々もちばぎん総合研究所というシンクタンクがございますが、そういったところが協力していくことが必要で、特に鉄道との協力は欠かせないとおっしゃっていて、正に同感いたしております。

ます。

これから計画策定を具体的にされていく中で、もちろん予算の関係もあると思いますが、京成との協力ですとか鉄道沿線の開発をしていかないといけない。東葉高速線沿線は新しくマンションも増えて人もどんどん入ってきますが、京成線沿線は人がいなくなってしまうということだけは避けていかなければならないと感じております。策定の中ではこちらも含めて策定していただければと思います。

○事務局

市全体の人口が減っていく中で都市機能のあり方を考えていき、開発の推進等を図っていく必要があると考えております。

○田中座長

京成線沿線は特に空き家が増えてきていて、おそらく子どもが外に出て行き、親だけが住む状況になった後に亡くなってしまい空き家が増えている状況だと思います。東葉高速線沿線は開発があり、マンションや戸建てが建っているのもまだ良いのですが、京成線沿線は空き家が増えているので、空き家を活用しリフォームして若い人に住んでもらうような取り組みが必要だと思います。

○佐藤委員

社会増の話は多く出ているのですが、人口が減らない自然増の取組みは何か具体的に考えているのでしょうか。先程 20 代後半から 30 代前半のちょうど適齢期の方が転出している話があり、転入してくる方は実家が八千代市にあるから戻ってくる方が多いのかなと思うのですが、自然増の取組みで、一人目を産んだけれども八千代市に住んだらとても良かったから、二人目、三人目を産みたくなるような施策が人口ビジョンとしてはとても大事だと思うのですが、何かご検討されていることがあればお聞きしたいです。また、それが学校やまちが元気になる 1 つかなと思います。

社会増の話は新しく学校や病院を作るようなかたちでたくさん出てくると思うのですが、自然増の取組みが社会増を誘発すると思うので、現在検討しているのか、検討していないのであれば今後検討していただけるのかお聞きしたいです。

○事務局

先程お話がありました世帯構成と繋がるのかなと思うのですが、地方で 1 世帯当たりの人口が多い地域は地域全体で子どもを育てる機運が高い傾向や、親戚など周りの方々がいる安心感があって、出生率が高くなっていくと思いますので、安心して子育てができる環境を整えることが大事だと思っております。若い世代応援プロジェクトで位置付けておりますが、出産から子育てに繋がる切れ目のない支援を続けることが大事で、スパンとしては長くなりますが、出生率が上がり最終的に自然増に繋がればと思っております。

○佐藤委員

そんな簡単に自然増にはなりません。もっとセンシティブな問題で、自然増の取組みをして初めて社会増に繋がると意識を変えていただく必要があると思います。是非そうした取組みをしていただくと、働きやすい・子育てしやすいまちに繋がると思いますのでよろしくをお願いします。

○田中座長

出産・子育てがしやすいまちは若い人達が集まる要因だと思います。おそらく八千代市に住んでいる大学生は都内などに通い、そのまま就職して、場合によっては東京や船橋・市川のような東京に近い方に引っ越してしまうと思うので、やはり八千代市の中で就職していく施策が大事だと思います。若い人に定住してもらうことが大事だと思いますので、そちらも今後考えていただければと思います。

他に何かございますか。発言していない方よろしいですか。

○島委員

単純な疑問で、2060年の数字が出ておりますが、2025年から減少する予測に対してレビューは都度行われると思うのですが、目標値はこれからでしょうか。プラスアルファと幅を持たせてありますが、例えば5段階評価で考えてこのままだともっと減ってしまうとか、現状のまま続ければいいなど、何かしら判断があると思うのですが2060年までだと長いので、スパン的にどうするかありますか。

○事務局

将来人口推計として2060年までの期間を提示しておりますが、それに対する取組みが今回1年延長する総合戦略となります。今回の将来人口推計を踏まえて、次期総合計画などの中で期間を区切って、時点での状況をみて修正しながら取組みたいと考えております。

○永長委員

54ページに人口のシミュレーションがございしますが、出生率が上がった場合を想定していて、今の1.4の状況の中ではなかなかハードルが高いと思うのですが、これはどのような目的でしょうか。単なる参考程度なのか、具体的に総合戦略に出生率を上げていく施策を入れていくのか教えてください。

○事務局

考え方としまして、希望出生率は資料の17ページに記載のアンケート結果などを基に算出したものが1.87となり、子どもを産み育てたい希望がアンケートの結果では出されております。この若い世代の求めに応じることができれば希望出生率まで上がるシミュレーションと、国が定める人口の置換水準、いわゆる人口が増えも減りもしない水準の出生率を国では「2」としていることから、こちらのシミュレーションを行っております。それが今の自然減が続

く中で、2060年の17万1千人のプラスアルファとしてシミュレーションを行ったものが、こちらの資料の狙いとなっております。

そのため、希望的な面もあり、これに対して八千代市がどれだけ応えていけるかになりますので、これからの施策の考え方や打ち方になろうかと思えます。

○町塚委員

皆様からたくさんご意見が出たように、社会増や自然増の取り組みをしていく必要があるということですが、そういう取り組みをしてもなお人口が減るという予想をされていることだと思います。ですので、都市運営コストを下げ、なおかつ質を落とさないような、人口減少に適応した地域を作る方法を是非ご検討いただきたいと思えます。

例えば、八千代市に17万人の人口がいてバラバラに人が住んでいるケースと、特定のエリアにまとまって居住しているケースでは、病院や公共施設がどれだけ必要であるかなど、その手のコストを下げる方法が考え得るのではないかと存じます。人口減を前提として、それに適応した地域としていく議論を是非していただきたいと思えます。

○事務局

先程の説明にもございましたが、新しい総合計画の前期の期間の中では、今の現状だと人口が増加していくものと見込んでおります。その間にお話しいただいたような、来るべき人口減少時代に向けた課題に対応していく中で、まちのあり方として社会的インフラの再整備などについての考え方をまとめていく必要があると考えております。

今までのように無秩序に外に外に広げるような開発ですと、結果的にはインフラの部分でお話のあった病院や上下水道、あるいは交通インフラについても、一方的に費用が掛かる状況になりかねませんので、そういったことに対する検討も順次始めていきたいと考えております。

○田中座長

他によろしいでしょうか。それでは、皆さんからそれぞれご意見いただいたようですので、次の議題に移ります。

議題(3)「その他」ですけれども事務局から何かございますか。

(3) その他

○事務局

皆様からいただいたご指摘やご意見を踏まえて、今後、総合戦略や人口ビジョンの改訂を行い、改訂後には皆様に送付させていただきたいと考えております。

○田中座長

今後の懇談会の予定はどうなりますか。

○事務局

今回の開催は来年度としたいと考えております。

○田中座長

任期は来年3月末までとなっていますので、来年度は計画を立てていく流れでしょうか。

○事務局

来年度は、次期総合戦略の策定などに関してご意見を伺いたいと考えております。

○田中座長

わかりました。それでは、以上をもちまして本日のまち・ひと・しごと創生懇談会を閉会といたします。長時間にわたりご協力いただき、誠にありがとうございました。